

先進地から学ぶ

総務常任委員会

平成20年11月13日から14日までの2日間、佐賀県有田町と唐津市において、調査を実施しました。

有田町は、人口約2万2000人のまちです。

「定住促進優遇助成制度」について調査しました。

町営宅地分譲地の購入者への助成として、1坪当たり30000円を分譲価格から値引きすることや、建築業者が2回以上の展示公開を行った場合、展示公開料の助成、またモデル住宅を建築した際、助成することとあります。

事業の課題として、当初計画では、10年間で完売する計画であったが、分譲状況が低迷しており、また、購入者の割合として、町外者が少ないため、隣接する佐世保市の賃貸住宅入居者をターゲットに、販売促進をかけているとのこととあります。

所見

わが町も現状のような分譲の低迷が続くことにより、一定期間に分譲が完了しないと、用地保有資金の借入利息の増加から造成原価の上乗せにつながるのではと懸念されます。当初計画で完売するため、不動産業者との連携強化による営業活動等の推進も必要かと考えます。



分譲地の説明を受ける委員

唐津市は、人口約13万2000人のまちです。「景観によるまちづくり」について調査しました。

唐津市は、平成18年1月に景観行政団体となつています。平成18年8月に景観まちづくり懇話会を設置し、それぞれ優れた景観を挙げてもらい、現地を見ながら、景観形成に関する基本的方針（素案）を策定していました。

景観計画については平成20年4月に施行され、市全域が景観計画区域となつています。この中で「蕨野の棚田」が重点地区として位置付けられています。「蕨野の棚田」にも耕作放棄地があります。

佐賀大学の学生で組織される「援農隊」で、米づくりを行っているとのことであり、都市住民との交流等、年間を通して棚田と関わりを持つていただくことが、景観づくりへと繋がっているとのこととあります。

所見

今後、景観づくりが地域づくり、まちづくりにもなり、協働という形で進められると、住民活動を活発に支援する行政の役割もますます大事になってきます。

本町にも我々が気付かない都市部の人から見た良好な景観があるので、広く町民や県外の町出身者の意見を集約し、観光客の増加や交流人口200万人の実現に向けて充分な検討が必要かと思われれます。



唐津市建設部副部長から説明を受ける委員